

山梨県砂利協同組合、身延砂利協同組合、早川砂利協同組合及び富士川中流砂利協同組合の4協同組合で組織する『山梨県砂利組合連合会』（井上聰一郎会長）は、6月28日（土）、甲府市宝のNOSA I 会館研修室において平成26年度『労働災害防止研修会』を開催した。

この研修会は、産業界の労働災害防止に向けた自主的な活動の推進及び定着のため厚生労働省が設置している『全国安全週間』（7月1日～7日）に先がけて毎年連合会が行っているもので、今年も連合会員50名の参加の下、講師に労働安全コンサルタントの功刀能文（くぬぎよしふみ）氏を招いて「労働災害と安全管理」のテーマで行った。

井上会長は、冒頭のあいさつの中で、「労働災害の撲滅は、地域社会へ貢献し、明るい社会を構築するうえで、の基盤である。」また「毎日の朝礼やミーティングなどを通じて日ごろから安全への意識を高めるよう。」と訴えた。

講演では、過去に起きたさまざまな労働事故と「山梨12次労働災害防止計画」を踏まえての県内の事故発生状況、法律の一部改正案などの説明とともに、意外に大きなリスクを内在している「転び（転倒）」に対する注意の呼びかけなど、日ごろからの安全衛生活動とその継続の重要性が講話された。



研修会風景

参加者からは、「日ごろから安全については意識しているつもりだが、この研修会で、あらためて日々の安全管理の重要性に気づかされ、より安全意識の高揚が図られた。防災防止研修会が毎年この時期に開催されるのは非常に有意義だ。」という声が多く聞かれた。



あいさつを行う井上会長